

## 実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：獣医学部 獣医学科〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
1 病院経営学	動物病院での臨床経験を踏まえ、動物病院経営の実情や問題点を概説する。	岡野 昇三	※岡野 昇三	4	前期	1 単位	選択
2 獣医外科学	動物病院での臨床経験を踏まえ、獣医外科学に必要な知識を概説する。	岡野 昇三	※岡野 昇三	4	前期	2 単位	必修
3 獣医外科学実習	病院での臨床経験を踏まえ、結紮・縫合や滅菌作業を概説し、実際に実習にて修得する。	岩井 聡美	※岩井 聡美	4	前期	1 単位	必修
	病院での臨床経験を踏まえ、小動物の外科手術に必須である術前検査法、手術器具の操作法、包帯法、結紮縫合法、輸液法等の基礎を概説するとともに、実際に実践することによって習得させる。		※左近允 巖				
	動物病院での臨床経験を踏まえ、手術に必要な知識や手技を概説する。		※岡野 昇三				
	開業動物病院及び付属動物病院での経験を踏まえ、より臨床に即した内容を説明する。		※前田 賢一				
	付属動物病院における手術症例を踏まえ、小動物の手術を実施する際に求められる知識、手技を概説する。		※石野 寛和				
4 麻酔学・救急医療学	病院での臨床経験を踏まえ、実際の症例を例に挙げながら小動物の周術期管理に必要な麻酔中の生体情報モニター法、注射麻酔および吸入麻酔法における基礎と応用を概説する。	左近允 巖	※左近允 巖	4	後期	1 単位	必修
	動物病院での臨床経験を踏まえ、遭遇する機会の多い救急疾患への対応に必要な知識を概説する。		※岡野 昇三				

## 実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：獣医学部 獣医学科〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
5 麻酔学・救急医療学 実習	病院での臨床経験を踏まえ、病院で実際に使用されている小動物の麻酔法および周術期の鎮痛法を、実際の動物を使用して実践することによって習得させる。	左近允 巖	※左近允 巖	4	後期	0.5 単位	必修
	動物病院での臨床経験を踏まえ、遭遇する機会の多い救急疾患への対応に必要な手技を概説する。		※岡野 昇三				
	病院での臨床経験を踏まえ、手術時の麻酔や緊急対応が行われているかを概説する。		※岩井 聡美				
	開業動物病院及び付属動物病院での経験を踏まえ、より臨床に即した内容を説明する。		※前田 賢一				
	病院における麻酔実施例を踏まえ、様々な麻酔プロトコルを体験する。		※石野 寛和				
6 小動物総合臨床学Ⅰ	小動物病院を開業していた時期の経験と附属動物病院での臨床経験を踏まえ、各種疾患への実践的なアプローチを概説する。	伊藤 直之	※伊藤 直之	5	前期	2 単位	必修
	民間および大学附属動物病院での臨床経験をもとに、小動物の血液病、問題行動の診療が実際にはどのように展開されるのかを概説する。		※木村 祐哉				
7 小動物総合臨床学実習Ⅰ	民間および大学附属動物病院での臨床経験をもとに、小動物の血液病、問題行動の診療が実際にはどのように展開されるのかを概説する。	木村 祐哉	※木村 祐哉	5	前期	1 単位	必修
	民間および大学附属動物病院での臨床経験を踏まえ、様々な検査系による循環器疾患の診断方法について説明する。さらに心臓超音波検査について、診断に必要な断層像の描出法を習得させる。		※亀島 聡				
	小動物病院を開業していた時期の経験と附属動物病院での臨床経験を踏まえ、各種疾患を診断するのに必要とされる実践的な技術について概説する。		※伊藤 直之				
8 小動物総合臨床学Ⅱ	一般開業動物病院勤務経験と獣医眼科専門医経験を踏まえ、小動物の診察に必要な知識を概説する。	金井 一享	※金井 一享	5	前期	2 単位	必修

## 実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：獣医学部 獣医学科〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
9 小動物総合臨床学実習Ⅱ	一般開業動物病院勤務経験と獣医眼科専門医経験を踏まえ、小動物の診察に必要な手技について実践的手法を概説する。	金井 一享	※金井 一享	5	前期	1 単位	必修
	動物病院での臨床経験を踏まえ、小動物臨床で実際に必要な手技等について概説する。		※田島 一樹				
10 小動物総合臨床学Ⅲ	動物病院での臨床経験を踏まえ、消化器系疾患、呼吸器系疾患への対応に必要な知識を概説する。	岡野 昇三	※岡野 昇三	5	前期	2 単位	必修
	病院での臨床経験を踏まえ、実際の症例を例に挙げながら小動物における整形外科疾患の診断および治療法を概説する。		※左近允 巖				
	病院での臨床経験を踏まえ、泌尿器・生殖器病学、腫瘍学の基礎知識と治療法を実際に実施している内容も提示しつつ概説する。		※岩井 聡美				
11 小動物総合臨床学実習Ⅲ	動物病院での臨床経験を踏まえ、消化器系疾患、呼吸器系疾患への対応に必要な手技を概説する。	岡野 昇三	※岡野 昇三	5	前期	1 単位	必修
	病院で実際に使用されている小動物の骨折および関節疾患における治療法の基礎をドライラボによって実践することによって習得させる。		※左近允 巖				
	病院での臨床経験を踏まえ、泌尿器・生殖器病学、腫瘍学における手術法や生検法などを実際に行われている方法を修得するための実習を行う。		※岩井 聡美				
	開業動物病院及び付属動物病院での経験を踏まえ、より臨床に即した内容を説明する。		※前田 賢一				
	病院における臨床例を踏まえ、小動物神経病の診断手順および治療法を概説する。		※石野 寛和				

## 実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：獣医学部 獣医学科〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
12 小動物病院実習	小動物病院を開業していた時期の経験と附属動物病院での臨床経験を踏まえ、各種疾患の診断・治療に必要なとされる実践的な技術と飼育者とのインフォームドコンセントについて概説する。	伊藤 直之	※伊藤 直之	5	後期	2 単位	必修
	民間および大学附属動物病院での臨床経験をともに、実習として参加可能な臨床現場を展開させる。一部の医療行為については、観察だけではなく実技も体験することから、臨床経験を踏まえた指導も加える必要がある。		※木村 祐哉				
	民間および大学付属動物病院での臨床経験を踏まえ、実際の患者の診断および治療方法を説明することで、臨床獣医学に対する理解を促進する。		※亀島 聡				
	一般開業動物病院勤務経験と獣医眼科専門医経験を踏まえ、より実践的方法や手技を一緒に実施する。		※金井 一享				
	動物病院での臨床経験を踏まえ、小動物臨床の実際を概説する。		※田島 一樹				
	病院での臨床経験を踏まえ、整形外科および神経疾患における診断方法と治療法について、実際の症例を用いて解説する。		※左近允 巖				
	病院における臨床例の診断、治療手順を体験し、各症例の診断根拠を概説する。		※石野 寛和				
	動物病院での臨床経験を踏まえ、小動物診療に必要な基本的な手技が実践できるように指導する。		※岡野 昇三				
	病院の臨床現場で実施している診療や外科手術について、実際の症例における診断・治療方針などを詳細に説明しながら進めていく。		※岩井 聡美				
	附属動物病院で日常の診療経験により将来の臨床獣医師に必要な内容について説明する。		※前田 賢一				
	撮影技術と読影技術について、より具体的に確実な方法を指導する。		※夏堀 雅宏				
	獣医学部小動物診療センターにおいて診療経験をふまえ、一般診察からがん治療や画像診断等の基礎から応用を概説する。		※和田 成一				
病院での臨床経験を踏まえ、来院する動物のハンドリングから、画像診断や臨床病理に至る診断学全般について概説する。	※柿崎 竹彦						
病院での実際の臨床経験を通じて、問診や検査、診断へのプロセスや考え方を学んでいく。	※石井 俊治						

## 実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：獣医学部 獣医学科〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
13 小動物臨床実習・演習	小動物病院を開業していた時期の経験と附属動物病院での臨床経験を踏まえ、各種疾患の診断・治療に必要とされる実践的な技術と飼育者とのインフォームドコンセントについて概説する。	岡野 昇三	※伊藤 直之	6	前期	1 単位	選択
	民間および大学附属動物病院での臨床経験をもとに、実習として参加可能な臨床現場を展開させる。一部の医療行為については、観察だけではなく実技も体験することから、臨床経験を踏まえた指導も加える必要がある。		※木村 祐哉				
	民間および大学附属動物病院での臨床経験を踏まえ、実際の患者の診断および治療方法を説明するだけでなく、診察を円滑に進めるためのテクニックなどを解説する。		※亀島 聡				
	一般開業動物病院と獣医眼科専門医の経験を踏まえ、各症例に対する治療方法について概説する。		※金井 一享				
	動物病院での臨床経験を踏まえ、小動物臨床の実際を概説する。		※田島 一樹				
	病院での臨床経験を踏まえ、実際の症例を使用しながら整形外科および神経疾患における診断法および治療法を習得する。加えて、最新の診断法や治療法も解説する。		※左近允 巖				
	病院における臨床例の診断、治療手順を体験し、各臨床例に応じて必要とされる臨床知識、手技を概説する。		※石野 寛和				
	動物病院での臨床経験を踏まえ、診断法、治療法、症例発表の方法を指導する。		※岡野 昇三				
	病院の臨床現場で実施している診療や外科手術について、実際の症例における診断・治療方針などを詳細に説明しながら理解させ、そこで得た知識をもとに興味のある症例をまとめ発表させる。		※岩井 聡美				
	附属動物病院で日常の診療経験により将来の臨床獣医師に必要な内容について説明する。		※前田 賢一				
	撮影技術と読影技術について、より具体的に確実な方法を指導する。		※夏堀 雅宏				
	獣医学部小動物診療センターにおいて診療経験をふまえ、一般診察からがん治療や画像診断等の基礎から応用を概説する。		※和田 成一				
	病院での臨床経験を踏まえ、来院する動物のハンドリングから、画像診断や臨床病理に至る診断学全般について概説する。		※柿崎 竹彦				

## 実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：獣医学部 獣医学科〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
14 大動物総合臨床学Ⅱ	産業動物臨床の経験を踏まえて、実際の症例を紹介しながら具体的に大動物外科学の診断・治療の講義を行う。	渡辺 大作	※渡辺 大作	4 5	後期 前期	1 単位	必修
	産業動物臨床の経験を踏まえて、実際の症例を紹介しながら具体的に大動物外科学の診断・治療の講義を行う。		※高橋 史昭				
	病院での臨床経験を踏まえ、大動物外科学分野を中心とした病気を概説する。		※前田 洋佑				
15 大動物総合臨床学実習Ⅱ	産業動物臨床の経験を踏まえて、実際に診療で行われる外科手技を実習している。	渡辺 大作	※渡辺 大作	5	前期	1 単位	必修
	産業動物臨床の経験を踏まえて、実際に診療で行われる外科手技を実習している。		※高橋 史昭				
	病院での臨床経験を踏まえ、大動物外科学分野を中心とした診断・治療技術を実習する。		※前田 洋佑				
	産業動物臨床の経験を踏まえて、実際に診療で行われる外科手技を実習している。		※鹿野 達也				
16 大動物総合臨床学Ⅲ	産業動物臨床の経験を踏まえて、実際の症例を紹介しながら具体的に大動物内科学の診断・治療の講義を行う。	渡辺 大作	※渡辺 大作	5	前期	2 単位	必修
	産業動物臨床の経験を踏まえて、実際の症例を紹介しながら具体的に大動物内科学の診断・治療の講義を行う。		※高橋 史昭				
	病院での臨床経験を踏まえ、大動物内科学分野を中心とした病気を概説する。		※前田 洋佑				
17 大動物総合臨床学実習Ⅲ	産業動物臨床の経験を踏まえて、実際に診療で行われる内科手技を実習している。	渡辺 大作	※渡辺 大作	5	前期	1 単位	必修
	産業動物臨床の経験を踏まえて、実際に診療で行われる内科手技を実習している。		※高橋 史昭				
	病院での臨床経験を踏まえ、大動物内科学分野を中心とした診断・治療技術を実習する。		※前田 洋佑				
	産業動物臨床の経験を踏まえて、実際に診療で行われる内科手技を実習している。		※鹿野 達也				

## 実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：獣医学部 獣医学科〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
18 大動物病院実習	動物病院において実際の症例に対して臨床経験を生かして診断・治療を実習を指導している。	坂口 実	※渡辺 大作	5	後期	1 単位	必修
	動物病院において実際の症例に対して臨床経験を生かして診断・治療を実習を指導している。		※高橋 史昭				
	病院での臨床経験を踏まえ、実際の大動物病院業務や診断・治療がどのように展開されるのかを実習する。		※前田 洋佑				
	動物病院において実際の症例に対して臨床経験を生かして診断・治療の実習を指導している。		※鹿野 達也				
	複数の公的研究機関での畜産研究の経験をふまえ、生産現場の課題解決に向けて、どのように研究が展開されるのかを概説する。		※坂口 実				
	病院での臨床経験を踏まえ、実際の病畜を用いて動物の取扱い方法や臨床所見の取り方など、診療技術の初歩を概説する共に、その技術を習得させる。		※菊池 元宏				
	現在附属病院では、農家の動物を借りて飼育することができないために体外受精関連の業務は行われていないが、実行可能な機材が病院にそろっているため、マニピュレーター、LAMP法増殖器等を使用可能な状態に整備し、実習に用いている。		※三浦 弘				
	来院した大動物症例の病理学的観察経験を踏まえ、病理学の意義や診断手法を概説する。		※小山田 敏文				
	臨床処置を続けても完治が見込めず、予後不良と判断された病畜について病理解剖を実施する。病理解剖時に病畜の体に起きている異変についてカメラと台帳に詳細に記録し、その後、病変がみられた組織や臓器を中心に病理標本作製し顕微鏡観察を行う。病畜の肉眼および病理組織像を解説することで病理学について親しみを感じてもらう。		※朴 天鎬				
	民間企業の病理部門での職務経験を踏まえ、主に病理解剖における病変の見方について概説する。		※安藤 亮				

## 実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：獣医学部 獣医学科〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
19 大動物臨床実習・演習	動物病院の症例に対して臨床経験を生かして診断・治療を実施し、診断に至る過程と治療と経過について既知の症例報告などと比べながら症例報告できるように指導する。	渡辺 大作	※渡辺 大作	6	前期	1 単位	選択
	動物病院の症例に対して臨床経験を生かして診断・治療を実施し、診断に至る過程と治療と経過について既知の症例報告などと比べながら症例報告できるように指導する。		※高橋 史昭				
	病院での臨床経験を踏まえ、実際の大動物症例を検討し、病気・診断・治療を実習・演習する。		※前田 洋佑				
	動物病院の症例に対して臨床経験を生かして診断・治療を実施し、診断に至る過程と治療と経過について既知の症例報告などと比べながら症例報告できるように指導する。		※鹿野 達也				
	複数の公的研究機関での畜産研究の経験をふまえ、生産現場の課題解決に向けて、どのように研究が展開されるのかを概説する。		※坂口 実				
	病院での臨床経験を踏まえ、廃用となり貰い受けた病畜を用いて疾病の診断・治療方針の立案など、実際の診療と同様のことを指導しながら学生自身に行わせる。		※菊池 元宏				
	病院での臨床経験を踏まえ、廃用となり貰い受けた病畜を用いて疾病の診断・治療方針の立案など、実際の診療と同様のことを指導しながら学生自身に行わせる。		※三浦 弘				
	来院した大動物症例の病理学的観察経験を踏まえ、病理学の意義や診断手法を概説する。		※小山田 敏文				
	臨床処置を続けても完治が見込めず、予後不良と判断された病畜について病理解剖を実施する。病理解剖時に病畜の体に起きている異変についてカメラと台帳に詳細に記録し、その後、病変がみられた組織や臓器を中心に病理標本を作製し顕微鏡観察を行う。病畜の肉眼および病理組織像を解説することで病理学について親しみを感ぜてもらふ。		※朴 天鎬				
	民間企業の病理部門での職務経験を踏まえ、主に病理解剖における病変の見方について概説する。		※安藤 亮				



## 実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：獣医学部 獣医学科〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
20 獣医基礎放射線学	病院での臨床経験を得る前の動機づけに経験談を話す。	夏堀 雅宏	※夏堀 雅宏	3	後期	1 単位	必修
	量子研機構および群馬大学医学研究科において、放射線の測定や管理、さらに生物影響の研究に関する経験をふまえ、放射線の安全な取り扱いと放射線に対する生物の生体防御機構や発癌メカニズムについて概説する。		※和田 成一				
	学部の選任放射線取扱主任者での経験を踏まえ、放射線管理の基本に必要な知識を概説する。		※柿崎 竹彦				
21 獣医臨床放射線学	放射線・画像診断機器等の実際の活用について臨床上、問題になりやすかったり重要なところを解説する。	夏堀 雅宏	※夏堀 雅宏	4	後期	1 単位	必修
	獣医学部附属小動物診療センターにおいて放射線治療の経験をふまえて、がん治療の実際について概説する。		※和田 成一				
	病院での放射線管理責任者としての経験を踏まえ、画像診断や放射線治療に必要な、放射線の挙動について概説する。		※柿崎 竹彦				
22 獣医臨床放射線学実習	—	夏堀 雅宏	※夏堀 雅宏	4	後期	1 単位	必修
	獣医学部附属小動物診療センターにおいて放射線治療の経験をふまえて、がん治療の実際について概説する。		※和田 成一				
	病院での放射線管理責任者としての経験を踏まえ、画像診断や放射線治療を実施するのに必要な管理の実態を、実験を通して概説する。		※柿崎 竹彦				
23 画像診断学	実際に経験した症例、飼い主の気持ちを踏まえた背景とともに解説する。	夏堀 雅宏	※夏堀 雅宏	4	後期	1 単位	必修
	獣医学部小動物診療センターにおいてX線診断、CT検査、MRI検査および超音波検査等の画像診断の経験をふまえ、画像診断における基礎的な読影ポイントから実践的ポイントを網羅的に概説する。		※和田 成一				
	病院での画像診断を専任している経験を踏まえ、X線、超音波、CT、MRI、核医学診断と多くの診断に必要な知識を概説する。		※柿崎 竹彦				

## 実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：獣医学部 獣医学科〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
24 画像診断学実習	画像の成り立ち、実際の読影方法について指導する。	夏堀 雅宏	※夏堀 雅宏	4	後期	0.5 単位	必修
	獣医学部小動物診療センターにおいてX線診断、CT検査、MRI検査および超音波検査等の画像診断の経験をふまえ、画像診断における基礎的な読影ポイントから実践的ポイントを網羅的に概説する。		※和田 成一				
	病院での画像診断を選任している経験を踏まえ、実際の診療で得られた画像を元に、学生に診断を行わせ、生体情報の取得に必要な技術を体験させる。		※柿崎 竹彦				
25 獣医内科学	小動物病院を開業していた時期の経験と附属動物病院での臨床経験を踏まえ、各種疾患への実践的なアプローチを概説する。	伊藤 直之	※伊藤 直之	4	前期	2 単位	必修
	産業動物臨床の経験を踏まえて実例を紹介しながら大動物内科学の講義を行う。		※渡辺 大作				
26 獣医内科学実習	民間および大学附属動物病院での臨床経験をもとに、獣医内科診療で求められる動物の取扱などを説明し、適宜助言を加えながら実習させる。	木村 祐哉	※木村 祐哉	4	前期	1 単位	必修
	民間および大学附属動物病院での臨床経験を踏まえ、小動物に対する内科診療を行う上で必要な基礎的知識および技術を習得させる。		※亀島 聡				
	小動物病院を開業していた時期の経験と附属動物病院での臨床経験を踏まえ、各種疾患の診断に必要なとされる実践的な技術について概説する。		※伊藤 直之				
27 プロダクションメ ディスン	肉用牛と乳牛の生産獣医療の経験を生かして、実際の現場での調査するときのポイント、血液検査や給与飼料調査から問題点をピックアップし、改善計画を立案する方法を講義する。	渡辺 大作	※渡辺 大作	6	前期	1 単位	選択
	肉用牛と乳牛の生産獣医療の経験を生かして、実際の現場での調査するときのポイント、血液検査や給与飼料調査から問題点をピックアップし、改善計画を立案する方法を講義する。		※高橋 史昭				

## 実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：獣医学部 獣医学科〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
28 獣医臨床繁殖学	複数の公的研究機関での畜産研究の経験をふまえ、生産現場の課題解決に向けて、どのように研究が展開されるのかを概説する。	坂口 実	※坂口 実	4	前期	2 単位	必修
	病院での臨床経験を踏まえ、畜産における繁殖業務の重要性及び実際の繁殖管理がどのように行われるのかを概説する。		※菊地 元宏				
	ステロイドホルモンの測定を担当しており、測定方法や、性周期や繁殖疾患における性ホルモン測定の意義について解説している。		※三浦 弘				
29 獣医臨床繁殖学実習	病院での臨床経験を踏まえ、繁殖学的検査の意義及び実際の繁殖的検査の実施方法を概説すると共に、生体を用いた実習で技術を習得させる。	菊地 元宏	※菊地 元宏	4	前期	1 単位	必修
	人工授精、妊娠診断を担当しており、実習でそれにかかわる実技を教えている。		※三浦 弘				
	複数の公的研究機関での畜産研究の経験をふまえ、生産現場の課題解決に向けて、どのように研究が展開されるのかを概説する。		※坂口 実				
30 大動物総合臨床学 I	複数の公的研究機関での畜産研究の経験をふまえ、生産現場の課題解決に向けて、どのように研究が展開されるのかを概説する。	坂口 実	※坂口 実	4	後期	2 単位	必修
	病院での臨床経験を踏まえ、畜産における繁殖障害防除の重要性及び実際の繁殖障害の治療がどのように行われるのかを概説する。		※菊地 元宏				

## 実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：獣医学部 獣医学科〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
31 大動物総合臨床学実習 I	病院での臨床経験を踏まえ、繁殖障害の診断法及び治療方法方法を概説すると共に、生体を用いた実習でその技術を習得させる。	菊地 元宏	※菊地 元宏	4	後期	1 単位	必修
	採胚、胚移植、胚の凍結保存、超音波画像診断装置による生殖器の診断や妊娠鑑定、発情同期化や過剰排卵に伴うホルモン投与、子宮洗浄を担当しており、実習でそれにかかわる実技を教えている。		※三浦 弘				
	複数の公的研究機関での畜産研究の経験をふまえ、生産現場の課題解決に向けて、どのように研究が展開されるのかを概説する。		※坂口 実				
32 獣医臨床病理学	一般開業動物病院勤務経験と獣医眼科専門医経験を踏まえ、各種疾患にはどのような検査が必要かを概説する。	金井 一享	※金井 一享	4	後期	1 単位	必修
33 獣医臨床病理学実習	一般開業動物病院勤務経験と獣医眼科専門医経験を踏まえ、各種検査方法を実践的する。	金井 一享	※金井 一享	4	後期	1 単位	必修
	動物病院での臨床経験を踏まえ、小動物臨床において重要な臨床病理学の手技等を概説する。		※田島 一樹				

## 実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：獣医学部 獣医学科〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
34 小動物参加型臨床実習 I	小動物病院を開業していた時期の経験と附属動物病院での臨床経験を踏まえ、各種疾患を診断するのに必要とされる実践的な技術と治療に関する考え方、さらにはそれらを進めていく上で必要なインフォームドコンセントの実際について概説する。	岡野 昇三	※伊藤 直之	5	後期	1 単位	選択
	民間および大学附属動物病院での臨床経験をもとに、実習として参加可能な臨床現場を展開させる。一部の医療行為については、観察だけではなく実技も体験することから、臨床経験を踏まえた指導も加える必要がある。		※木村 祐哉				
	民間および大学附属動物病院での臨床経験を踏まえ、実際の患者の診断および治療方法を説明するだけでなく、診察を円滑に進めるためのテクニックなどを解説する。また一部の手技を実際に経験させ、その技術を習得させる。		※亀島 聡				
	一般開業動物病院勤務経験と獣医眼科専門医経験を踏まえ、より実践的方法や手技と一緒に実施するだけでなく、飼い主への説明やケアについても経験してもらう。		※金井 一享				
	動物病院での臨床経験を踏まえ、小動物臨床の実際を概説する。		※田島 一樹				
	病院での臨床経験を踏まえ、小動物の臨床に必要な基本手技を概説すると同時に、実際に学生に実践させることで習得させる。		※左近允 巖				
	病院における神経科の診察、治療に参加し、小動物神経病の臨床に求められる知識、手技を概説、体験する。		※石野 寛和				
	動物病院での臨床経験を踏まえ、小動物診療に必要な手技が実践できるように指導する。		※岡野 昇三				
	実際に病院で行っている診察や治療において、これまでに実習で行ってきた内容をいかして診療に携わせる。		※岩井 聡美				
	附属動物病院で日常の診療経験により飼い主とのコミュニケーションを中心に将来の臨床獣医師に必要なとなる内容について説明する。		※前田 賢一				
	飼い主に対してどのように説明するかをよく理解させる。		※夏堀 雅宏				
	獣医学部小動物診療センターにおいて診療経験をふまえ、一般診察からがん治療や画像診断等の基礎から応用を概説する。		※和田 成一				
病院での実務経験を踏まえ、動物への侵襲性の低い診療行為を、原理・原則に基づいて体験させる。	※柿崎 竹彦						

## 実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：獣医学部 獣医学科〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
35 小動物参加型臨床実習Ⅱ	小動物病院を開業していた時期の経験と附属動物病院での臨床経験を踏まえ、各種疾患を診断するのに必要とされる実践的な技術と治療に関する考え方、さらにはそれらを進めていく上で必要なインフォームドコンセントの実際について概説する。	岡野 昇三	※伊藤 直之	5	後期	1 単位	選択
	民間および大学附属動物病院での臨床経験をもとに、実習として参加可能な臨床現場を展開させる。一部の医療行為については、観察だけではなく実技も体験することから、臨床経験を踏まえた指導も加える必要がある。 学外での実習については、特に民間の動物病院での経験を踏まえ、診療の背景等を解説する。		※木村 祐哉				
	民間および大学附属動物病院での臨床経験を踏まえ、実際の患者の診断および治療プランなどを学生と共に考えながら、獣医療の現場で即戦力となるために必要な知識・技術を習得させる。		※亀島 聡				
	一般開業動物病院勤務経験と獣医眼科専門医経験を踏まえ、より実践的方法や手技と一緒に実施するだけでなく、飼い主への説明やケアについても経験してもらう。		※金井 一享				
	動物病院での臨床経験を踏まえ、小動物臨床の実際を概説する。		※田島 一樹				
	病院での臨床経験を踏まえ、小動物の臨床に必要な基本手技を概説すると同時に、実際に学生に実践させることで習得させる。		※左近允 巖				
	病院における神経科の診察、治療に参加し、小動物神経病の臨床に求められる知識、手技を概説、体験する。		※石野 寛和				
	動物病院での臨床経験を踏まえ、小動物診療に必要な手技が実践できるように指導する。		※岡野 昇三				
	実際に病院で行っている診察や治療において、これまでに実習で行ってきた内容をいかして診療に携わせる。		※岩井 聡美				
	附属動物病院で日常の診療経験により飼い主へのインフォームドコンセントを中心に将来の臨床獣医師に必要な内容について説明する。		※前田 賢一				
	飼い主に対してどのように説明するかをよく理解させる。		※夏堀 雅宏				
	獣医学部小動物診療センターにおいて診療経験をふまえ、一般診療からがん治療や画像診断等の基礎から応用を概説する。		※和田 成一				
病院での実務経験を踏まえ、小動物参加型臨床実習Ⅱに加えて動物への侵襲性が生じる診療行為を体験させる。	※柿崎 竹彦						

## 実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：獣医学部 獣医学科〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
36 大動物参加型臨床実習 I	動物病院の症例を臨床経験を生かして学生個別に診断治療を実習させるとともに、症例を詳細に解析して報告できるように指導する。	渡辺 大作	※渡辺 大作	5	後期	1 単位	選択
	動物病院の症例を臨床経験を生かして学生個別に診断治療を実習させるとともに、症例を詳細に解析して報告できるように指導する。		※高橋 史昭				
	病院での臨床経験を踏まえ、習得した知識の実践応用、直面する症例に対する診断・治療を通じた問題解決能力向上、症例や飼い主への態度を実習する。		※前田 洋佑				
	動物病院の症例を臨床経験を生かして学生個別に診断治療を実習させるとともに、症例を詳細に解析して報告できるように指導する。		※鹿野 達也				
	複数の公的研究機関での畜産研究の経験をふまえ、生産現場の課題解決に向けて、どのように研究が展開されるのかを概説する。		※坂口 実				
	病院での臨床経験を踏まえ、廃用となり貰い受けた病畜を用いて疾病の診断・治療方針の立案など、実際の診療と同様のことを指導しながら学生自身に行わせる。		※菊池 元宏				
	この授業は担当する学生がいるとは限らず、また現在まだ行われていない科目なので明確ではない。獣医臨床繁殖学、大動物総合臨床学実習 I および獣医臨床繁殖学実習に準じると考えられる。		※三浦 弘				
	来院した大動物症例の病理学的観察経験を踏まえ、病理学の意義や診断手法を概説する。		※小山田 敏文				
	臨床処置を続けても完治が見込めず、予後不良と判断された病畜について病理解剖を実施する。病理解剖時に病畜の体に起きている異変についてカメラと台帳に詳細に記録し、その後、病変がみられた組織や臓器を中心に病理標本作製し顕微鏡観察を行う。病畜の肉眼および病理組織像を解説することで病理学について親しみを感じてもらおう。		※朴 天鎬				
民間企業の病理部門での職務経験を踏まえ、主に病理解剖における病変の見方について概説する。	※安藤 亮						

## 実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：獣医学部 獣医学科〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
37 大動物参加型臨床実習Ⅱ	学外の参加型実習に際して、臨床経験を生かして実習先を紹介するとともに、報告書の作成をアドバイスする。	渡辺 大作	※渡辺 大作	5	後期	1 単位	選択
38 エキゾチックアニマル	病院での実務経験を踏まえ、犬猫以外の動物に対する診療の基礎を概説する。	柿崎 竹彦	※柿崎 竹彦	4	前期	1 単位	選択
39 動物行動学	動物行動学の学習内容には、動物病院における診療のあり方や問題行動の分類も含まれており、それらについて実際の臨床例の経験も踏まえて説明する。	木村 祐哉	※木村 祐哉	3	後期	1 単位	必修
40 獣医病理学Ⅰ	病院患畜の病理学的検査経験（病理解剖、組織診断）を踏まえ、病理学の意義、重要性を概説する。	小山田 敏文	※小山田 敏文	3	前期	2 単位	必修
41 獣医病理学Ⅱ	臨床処置を続けても完治が見込めず、予後不良と判断された病畜について病理解剖を実施する。病理解剖時に病畜の体に起きている異変についてカメラと台帳に詳細に記録し、その後、病変がみられた組織や臓器を中心に病理標本作製し顕微鏡観察を行う。病畜の肉眼および病理組織像を解説することで病理学について親しみを感じてもらう。	朴 天鎬	※朴 天鎬	3	後期	2 単位	必修
42 獣医病理学実習Ⅰ	病院患畜の病理学的検査経験（病理解剖、組織診断）を踏まえ、病理学の意義、重要性を概説する。	安藤 亮	※小山田 敏文	3	前期	2 単位	必修
	臨床処置を続けても完治が見込めず、予後不良と判断された病畜について病理解剖を実施する。病理解剖時に病畜の体に起きている異変についてカメラと台帳に詳細に記録し、その後、病変がみられた組織や臓器を中心に病理標本作製し顕微鏡観察を行う。病畜の肉眼および病理組織像を解説することで病理学について親しみを感じてもらう。		※朴 天鎬				
	民間企業（安全性試験の受託機関）の病理部門での職務経験を踏まえ、顕微鏡の見方や病理解剖における病変の見方について概説する。		※安藤 亮				



## 実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：獣医学部 獣医学科〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
43 獣医病理学実習Ⅱ	<p>病院患畜の病理学的検査経験（病理解剖、組織診断）を踏まえ、病理学の意義、重要性を概説する。</p> <p>臨床処置を続けても完治が見込めず、予後不良と判断された病畜について病理解剖を実施する。病理解剖時に病畜の体に起きている異変についてカメラと台帳に詳細に記録し、その後、病変がみられた組織や臓器を中心に病理標本作製し顕微鏡観察を行う。病畜の肉眼および病理組織像を解説することで病理学について親しみを感ぜてもらおう。</p> <p>民間企業（安全性試験の受託機関）の病理部門での職務経験を踏まえ、顕微鏡の見方や病理解剖における病変の見方について概説する。</p>	朴 天鎬	<p>※小山田 敏文</p> <p>※朴 天鎬</p> <p>※安藤 亮</p>	3	後期	1 単位	必修
44 野生動物学	青森県傷病保護センターで傷病野生動物の診療に携わり、実際に対応する症例の原因・処置について講義する。	進藤 順治	※進藤 順治	3	後期	1 単位	必修
45 臨床栄養学	小動物病院を開業していた時期の経験と附属動物病院での臨床経験を踏まえ、各種疾患に必要なとされる栄養学的処置について概説する。	伊藤 直之	※伊藤 直之	4	前期	1 単位	必修

## 実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：獣医学部 獣医学科〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
46 獣医倫理・動物福祉学	獣医師に対する裁判の事例など、実際の臨床現場で遭遇した経験を紹介する。	夏堀 雅宏	※夏堀 雅宏	4	前期	1 単位	必修
	小動物病院を開業していた時期の経験と附属動物病院での臨床経験を踏まえ、獣医師としてのあるべき姿勢や飼育者との信頼関係構築などについて概説する。		※伊藤 直之				
	動物病院での臨床経験を踏まえ、小動物臨床に必要な倫理・動物福祉を概説する。		※岡野 昇三				
	複数の公的研究機関での畜産研究の経験をふまえ、生産現場の課題解決に向けて、どのように研究が展開されるのかを概説する。		※坂口 実				
合計						57 単位	